

あつちにも、こつちにも!

季節が違うせいとか、5月に石垣島で見たものより、黄色が鮮やか。このように秋に集団をつくり、その後、分散して越冬するらしい。

高井さん、別府さんによると、今年は少な目ということだが、こんな大集団を初めて見る私の心臓はうれしさでドッキン、ドッキン。

写真を撮ろうと枝をそおつと下ろしていたら、その刺激で散らばりはじめたカメムシたちがぼた、ぼた、ぼた、ぼた、ぼた……

雨のように降り注いできた。

上着の背中にも腕にもぼた、ぼた。

カメムシが体についたところを「撮って、撮ってえー」と、同行の夫に叫ぶと、私が嫌がっていると思った初対面の別府さんが取り除こうとするので、「取らないでー撮って、撮ってー」と、支離滅裂に狂喜する私でした。

下草の上にも落ちて、あたりは黄色いアカギカメムシだらけ。

高井さんによると近年は肩にトゲのある個体が、沖縄や石垣島に比べると断然多い(北に行くほどトゲのある個体が多い傾向)のだという。

アカギカメムシは背中の特徴が、頭部を下にすると、ひょうきん眉毛に口角の上がついた人の笑顔に見える。

白眉毛でつり目タイプとか、眉毛に白い棒どりがあつたり、垂れ目のとか、白眉毛タイプとか。集合している一団に目をこらすと、一頭一頭違う顔に見えてくるのが楽しい。

さらに林の中を歩くと、はるかに高いシナアブラギリの上にオオキシカメムシも見つかった。

別府さんと別れ、せっかく四国にきたのだからぜひサツマニシキを見てみたい、とお願ひして寄り道。高井さんは誰も入らないような草高い場所にずんずん。

セイタカアワダチソウの黄色い花を吸っているサツマニシキを、初めて見ることができた!

ところで、この日足摺岬へのロングドライブ中、助手席の私はずっとICレコーダーをまわして、運転中の高井さんのお話を録音させていただいた。

その録音のなかから、『日本原色カメムシ図鑑第3巻』のハイライトともいえるべき、希少種「シコククチプトカメムシ」発見から図鑑掲載に至るまでの話をお聞きすることができたので、左記にまとめてみた。

### シコククチプトカメムシを探し求めて——高井幹夫さんの話

「シコククチプトカメムシは、高知県東部の魚梁瀬杉で有名な馬路村で初めて採集され、1950年に新種記載されたカメムシ。

記載後、本州で1個体採集されているものの、あまりにも見つからないことから、専門家の間でも独立種ではないのでは、と疑問視されていました。外観がシモフリクチプトカメムシによく似ており、シモ



この(10月)集団は越冬ではなく繁殖のために形成されたものらしい。



アカギカメムシは体長19ミリ~26ミリの大型のカメムシ。体色は赤実を帯びたものから白っぽいものまで地域や成熟度によって変化する。



このように肩にトゲのある個体は北の生息地へいくほど多いという。



枝をさげて写真を撮っていたら、その刺激で集団がばらけはじめた……。



ぼたぼたぼたぼた、雨のようにアカギカメムシが降ってきた~。



サツマニシキは開張70~80ミリ。美しい昼飛性のガだ。